



赤ちゃんのいる家庭は
次のものと一緒に準備

ベビーフード、ミルク、日持ちするおやつ、水、紙おむつ、哺乳瓶、お気に入りのおもちゃ、下着・着替え、靴下、個包装のスプーン、おしぼり、おしり拭き、タオル・バスタオル、ビニール袋など

非常食の備蓄は「ローリングストック法」で

ローリングストックとは、定期的に食べながら、買い足しを繰り返して、備蓄すること。日常食べているものを非常食にし、賞味期限が切れる前に食べる。食べた分だけ補充していく。



災害用伝言サービス

大災害が発生し、電話が繋がりにくい状況が続いた場合に、家族や知人との安否確認や避難場所の連絡などを電話やインターネットでスムーズに行えるサービス。「災害用伝言ダイヤル(171)」「災害用伝言板」「災害用伝言板(web171)」「災害用音声お届けサービス」など。

毎月1日と15日、1月1日～3日、防災週間(8月30日～9月5日)、ボランティア週間(1月15日～21日)には、体験利用が可能。詳しくは、総務省のホームページを参照。

災害用伝言サービス 検索

普段からしておきたいこと

1、防災グッズの準備

「①常に持ち歩くもの」「②非常持ち出し用品」「③備蓄しておきたいもの」の3種類の防災グッズセットを準備しておく。

【例】

- ①ホイッスル、携帯ラジオ、懐中電灯、携帯電話、筆記用具、貴重品・現金(10円玉含む)、薬、簡易救急セットなど
*自分が必要だと思うものを、ポーチにまとめて普段使うかばんに入れておく。
- ②水、食品(レトルト食品、栄養補助食品、乾パン、缶詰など)、手袋・軍手、スリッパ、救急セット、生理用品、携帯ラジオ、万能ナイフ(ハサミ)、ウェットシート、マスク、予備電池、ビニール袋、常備薬、衣類、洗面用具、タオルなど
*家族一人ずつそれぞれの非常持ち出し袋を準備する。
*必要最小限にして重くしないこと。
- ③水、食品(レトルト食品、栄養補助食品、乾パン、缶詰、調味料など)、カセットコンロ、ティッシュ・トイレトペーパー、ラップ、ろうそく、マスク、簡易トイレ、使い捨てカイロ、毛布、衣類、ドライシャンプー、寝袋、新聞紙、工具類など
*水と食料は、最低3日分は用意しておく。



2、家の中の安全対策

- 大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考える。
- 寝室や子ども部屋などには、できるだけ家具を置かない。置いてもなるべく背の低いものを選ぶ。
- 家具が倒れてけがをしたり、出入り口をふさいだりしないように、向きや配置を工夫する。
- 家具を壁に固定したり、棚の開き戸に留め金を付けたりする。ガラスには、ガラス飛散防止フィルムを張る。
- 手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておく。

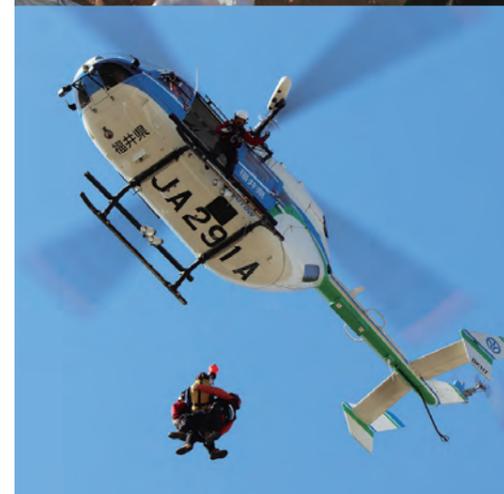


3、家族との情報共有

家族がそれぞれ別々の場所にいるときに災害が発生した場合、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や避難・集合場所などを家族で話し合っておく。



「災害への備え」は万全ですか？



▲【右上から時計回り】転倒家具からの救助訓練、濃煙体験、チェーンソーを使った木材撤去訓練、防災ヘリ救助デモンストレーション、土のう作成・積み訓練、負傷者等運搬訓練

▲参考：パパとママの防災講座(8月3日こあらっ主催)、政府広報オンライン「災害時に命を守る一人一人の防災対策」(https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201108/6.html)

災害に関する情報はここから

- メール配信
 - 災害テレフォンサービス 0180-99-7000 (自動案内)
 - Yahoo! 防災速報アプリ
 - あわら市防災ガイドブック 各災害のハザードマップや日頃の備えや避難方法などについて掲載。市のホームページや、スマートフォンアプリ「マチイロ」から閲覧可能。
 - 福井県危機対策・防災情報ポータルサイト
 - 北陸電力「災害・停電等情報」公式 Twitter
- 詳しくは、広報裏表紙「くらしのカレンダー」をご覧ください。

くらしのカレンダーのために
近年、地震や台風、大雨など、さまざまな災害が全国各地で多発しています。あわら市でもいつ何時発生するか分かりませんが、災害から身を守るには、普段からの備えが大切です。避難訓練への参加をはじめ、防災グッズの用意や避難場所の確認など、いざというときのために、防災について一度考えてみませんか。

あわら市総合防災訓練を実施
11月10日(日)に、あわら市総合防災訓練を実施しました。7時にあわら市沿岸沖を震源とする地震が発生し、市内で最大震度6強を観測したと想定。7時5分にあわら市沿岸部に津波警報が発表され、同時刻に対象区に対して避難指示を、地震による2次災害発生への恐れがあるため、7時10分に市内全域に対して避難指示を、それぞれ発令しました。防災行政無線の放送を聞いた各区の訓練参加者は、一時避難所への移動訓練を行いました。
坪江地区では、体験型災害対応訓練も併せて実施。坪江地区の住民と一緒に、地元企業で働く外国人も今回初めて参加しました。非常炊き出し訓練やチェーンソーを使った木材撤去訓練、転倒家具からの救助訓練、土のう作成・積み訓練、濃煙体験、初期消火訓練などさまざまな訓練や体験のほか、避難所設営訓練やパネル展示、自衛隊車両などの見学も行い、参加者たちは、防災技術や知識、災害に対する心構えについて学んできました。